

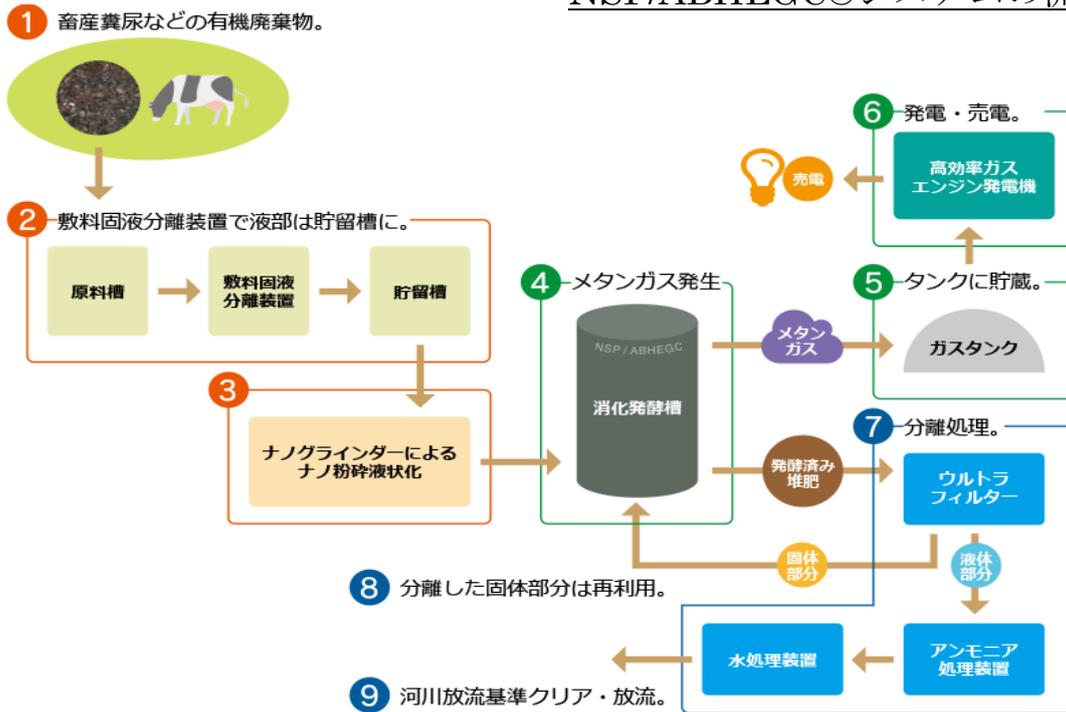
ORIC NEWS

翔飛

ひし
ょう

入居企業紹介 株式会社 エヌ・エス・ピー

NSP/ABHEGC®システムの流れ



【株式会社 エヌ・エス・ピー 概要】

脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーに対する期待が日増しに高まりつつある。自然環境に左右されやすい再生可能エネルギーであるが、安定して発電が行える電源がバイオマス発電である。日本国内におけるバイオマス発電事業は2012年にスタートした再生可能エネルギーの固定買取制度により市場規模が急速に拡大してきており、2016年度対比で2020年度に倍増、2030年度には3倍以上となることが予想されている。市場を牽引するのは木質系バイオマス発電事業とみられているが、一方でメタン発酵ガス化発電事業も増加している。その主体は地方自治体、家畜農家、食品メーカー、産廃処理施設業者等幅広く、下水汚泥、家畜の糞尿や生ごみなどを発酵させることで、メタンなどのバイオガスを発生させて、ガスエンジンで発電を行う。株エヌ・エス・ピーは高効率のバイオマスメタンガス発電プラントの設計・施工及び運用に取り組んでいる。



【エヌ・エス・ピー HP】

— 本号の主な内容 及び ORIC 連絡先 —

入居企業紹介 (P.1、2 株式会社 エヌ・エス・ピー)

交流会・セミナー活動 (P.3 2019年10、12月)

入居者の活動・トピックス(P.4) 入居案内 (P.4)

飛翔発行元：岡山リサーチパークインキュベーションセンター
〒701-1221 岡山県岡山市北区芳賀 5303

TEL：086-286-9116 FAX：086-286-9117 E:mail：info@oric.ne.jp

【公式 HP】 <http://www.oric.ne.jp>

No.67 (2020.1)



【設立経緯】

当社は水殺菌浄化、廃液・汚染地下水処理、水質改善などに関する環境ビジネスを行う会社として1998年9月に岡山にて設立、その後東京へ本社機能を移転。東日本大震災時には油と水、スラッジ（沈殿物）などの分離を行う原発汚染水処理装置の納入実績あり、事故後の復旧にも一役買っている。その後、原発停止によるエネルギー供給問題の解決のため、高効率のバイオメタンガス発電事業を立ち上げるにあたり、2013年5月より技術本部がある岡山で第二創業を目指しORICへ入居開始、現在に至る。

【当社バイオメタンガス発電プラントについて】

従来の有機物バイオメタンガス発酵及びそれによる発電は、有機物の消化効率が30～50%程度にとどまり、残りは残渣となって廃棄物処理を行う必要があった。これに対し当社のシステムでは特殊粉碎装置（NGU：ナノグラインダーユニット）を主体とした独自技術により、有機物をミクロンレベルまで粉碎し、また特殊膜ろ過装置を併設することで最大90%まで高分解効率化が可能となり、従来型と比較してメタンガスの生成量及びそれによる発電量の大幅な向上を達成。また、同レベルの発電規模であれば従来型に比べプラントスペースを最大1/8以下へ縮小でき小規模な牧場や食品工場、地方自治体等の小スペースな場所への設置にも対応。加えて当社の水殺菌処理装置の活用により最終的に残る残渣の有機肥料化も可能となったことから、完全循環型のバイオメタンガスシステムの構築を実現している。

【ORICでの研究開発について】

メタン発酵を行うために必要なバイオマスは、各原料毎に特性が異なるため全てにおいて検証が必要となる。当社はORICの専用ラボスペースを活用し、ベースとなる高効率の有機物分解・消化・発酵の実験検証を各顧客別の原材料にて継続的に行っている。これまでに、牛糞・下水汚泥・脱水汚泥などの研究を行ってきたが、今後はメタン発酵が困難と言われる豚、鶏糞などの研究開発の継続やビール、清涼飲料水メーカーから排出されるビール滓、お茶滓などの廃棄物原料の工場内完全リサイクルの研究開発を行っていきたいと考えている。

【今後の展望】

バイオマスガス発電事業は事業採算性の高さや地域活性化への期待から、国内各地で普及が進んでおり、今後市場はより一層拡大していくことが予想されている。当社は引続き原料や地域など顧客の設置条件に応じたより多くの実証データの取得を図り、そのデータを踏まえた本プラント導入への提案活動を強化していく方針。「人に環境に優しいテクノロジーを提供することで地球環境の維持・改善に貢献」をモットーに、高効率のバイオメタンガス発電プラントの商業ベースでの建設・運用に向け早期事業化を推し進めていく。

■ NSP 特許技術 NSP/ABHEGC®システム

(All Biomass High speed processing Efficient Gas Conversion)



特許第 5705359 号/
特許第 5870342 号/
特許第 5870343 号

■ 超微細粉碎

[高速可溶化処理技術]



■ 膜処理技術

[高濃度汚泥（菌体）濃縮維持技術]



株式会社 エヌ・エス・ピー

1998年9月設立 代表者：井戸幸治 資本金：290百万円

HP：<http://www.nsp-corp.jp/>

事業内容：バイオマスプラント建設運用、水殺菌浄化、
廃液汚染水処理 他

■ 2019年10月度交流会

10月23日、岡山県備前市の株式会社ノブハラ 延原社長様に ORIC へお越し頂きご講演頂きました。

株式会社ノブハラを創業し、現在に至るまでの過程について延原社長様のご経験談や、同社主力製品の「スクリーメッシュ®」が生まれた背景などについてお話がありました。

ご講演の中で、新しいアイデアづくりをする為には「アイデアを出しやすい社風づくり」・「失敗を糧にして会社を成長させていく姿勢」を社長様ご自身だけでなく社員へも共有することが重要であること、新しいアイデアのヒントは予期せぬところにあり、視野を広げていくことの大切さ、創業・ベンチャーにとって「やり抜く覚悟」と「販売に対する工夫(各種販売に繋げるルートづくりなど)」は欠かせないことなどを教えて頂きました。講演後には、参加者からの質問へも対応頂き、参加企業との交流も深めることができました。

ORIC では、定期的に経営セミナーと称して「起業・創業に役立つセミナー」を開催していく予定です。これから起業を考えている方や起業して間もない方も、ネットワークの拡大や事業展開に ORIC のセミナーなどを是非活用頂ければと思います。



■ 2019年12月度交流会

年末も押し迫った12月26日、ORIC 2F 交流サロンにて、忘年会形式での12月度交流会を開催致しました。入居企業同士の交流、1年の反省と来年への飛躍の糧としていただくことを目的に入居企業17社、支援機関も含め総勢47名と多くの方にご参加を頂きました。

当日は、軽食の他各種ドリンクを用意し、リラックスした雰囲気の中で、異業種交流を深めるとともに、参加者の方々にはこの一年間の疲れを癒やして頂けたのではと思っています。また、交流会の冒頭(株)シースリー、レイプロ(株)、(株)アイテムワンの3社に自社の取組みについてのご登壇を頂きました。今後につきましても、入居企業同士の更なる交流を図るべく、興味を持って頂ける企画づくりを実施していきたいと考えています。



■ 岡山イノベーションコンテスト 2019

11月23日に開催された「岡山イノベーションコンテスト2019」にORIC入居企業から株式会社ウィズレイがファイナリストとして登壇。ビジネスプラン部門、ビジネス部門でファイナリスト計15社によるプレゼンテーションが行われた中、当社が見事ビジネス部門で大賞を受賞されました。本当におめでとうございます！ORIC入居企業としては、昨年の株式会社KCBプランニングに続き2年連続の大賞受賞となりました。



■ ビジネスチャンス発掘フェア 2019

11月27、28日マイドームおおさかで開催された「ビジネスチャンス発掘フェア 2019」にORICブースを出展し、関西圏内の企業様方との各種情報交換やORICのPRを実施しました。また入居企業からは株式会社アイテムワンが出展し、県外企業との商談・面談により自社サービスを熱心にアピールされていました。引続きORICでは、県内外の展示会出展の斡旋を図っていきたくと考えております。



入居者募集中！！

センターでは随時入居のご相談に応じています。お気軽にお問合せください。

■ 施設使用料 (2020年1月現在)

| 施設区分 | 面積 | 使用料の月額 (減額後の使用料※) |
|-------|-----------------------|-------------------------|
| 研究室小 | 約 25 m ² | 47,130 円 (23,565 円) |
| 研究室大 | 約 50 m ² | 92,180 円 (46,090 円) |
| 試作開発室 | 約 100 m ² | 183,330 円 (91,665 円) |
| 創業準備室 | 5 m ² /ブース | 5,000 円 |

※創業5年未満の会社は、入居後3年間は半額になる制度があります。

Before



After



【TEL】086-286-9116

【公式 HP】<http://www.oric.ne.jp>



【ORIC HP】

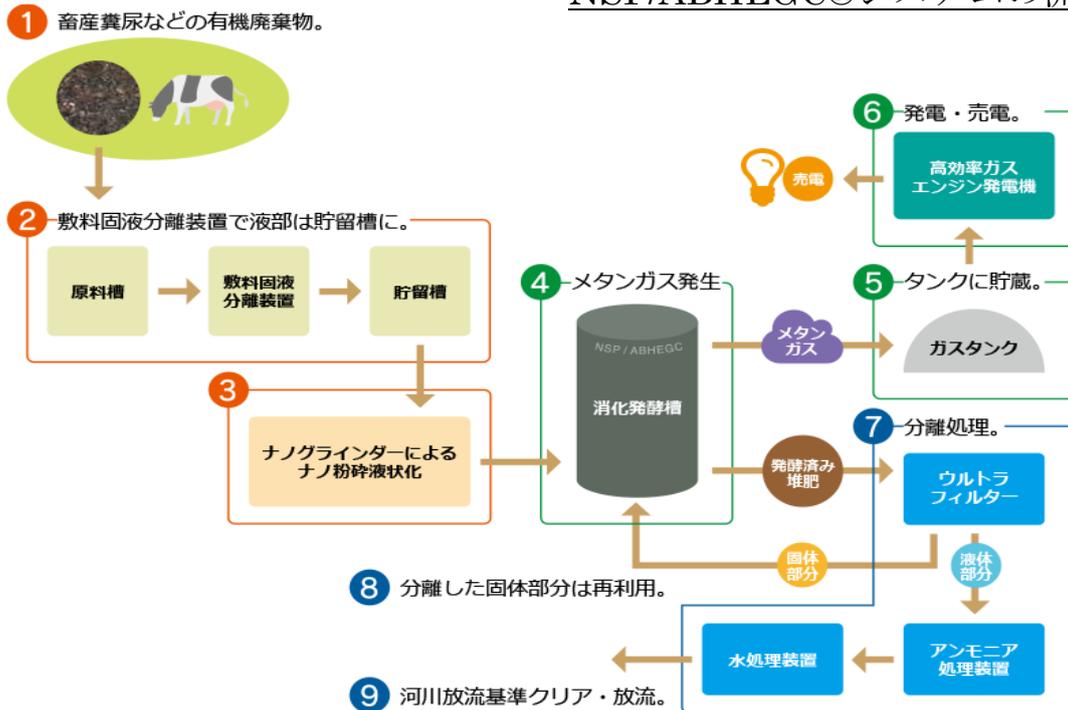
ORIC NEWS

翔飛

ひし
ょう

入居企業紹介 株式会社 エヌ・エス・パイ

NSP/ABHEGC®システムの流れ



【株式会社 エヌ・エス・パイ 概要】

脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーに対する期待が日増しに高まりつつある。自然環境に左右されやすい再生可能エネルギーであるが、安定して発電が行える電源がバイオマス発電である。日本国内におけるバイオマス発電事業は2012年にスタートした再生可能エネルギーの固定買取制度により市場規模が急速に拡大してきており、2016年度対比で2020年度に倍増、2030年度には3倍以上となることが予想されている。市場を牽引するのは木質系バイオマス発電事業とみられているが、一方でメタン発酵ガス化発電事業も増加している。その主体は地方自治体、家畜農家、食品メーカー、産廃処理施設業者等幅広く、下水汚泥、家畜の糞尿や生ごみなどを発酵させることで、メタンなどのバイオガスを発生させて、ガスエンジンで発電を行う。株エヌ・エス・パイは高効率のバイオマスメタンガス発電プラントの設計・施工及び運用に取り組んでいる。



【エヌ・エス・パイ HP】

— 本号の主な内容 及び ORIC 連絡先 —

入居企業紹介 (P.1、2 株式会社 エヌ・エス・パイ)

交流会・セミナー活動 (P.3 2019年10、12月)

入居者の活動・トピックス(P.4) 入居案内 (P.4)

飛翔発行元：岡山リサーチパークインキュベーションセンター
〒701-1221 岡山県岡山市北区芳賀 5303

TEL：086-286-9116 FAX：086-286-9117 E:mail：info@oric.ne.jp

【公式 HP】 <http://www.oric.ne.jp>

No.67 (2020.1)

